

令和6年度

つつじが丘保育園

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

3・4・5歳児 つき ・ほし組

1. 活動のテーマ

<テーマ>

- ・鏡の不思議な世界を体験し、遊びのバリエーションを楽しむ。

<テーマの設定理由>

- ・鏡を通して自分を認識し表情が豊かになり自分と他者の違いにも気づく。
- ・顔、手、足など体全体を動かして表現する。
- ・ミラーボックス（4面）を使用し、自分の映り方や□△○◇などのプレートを用い、組み合わせを楽しんだり色々な角度から見て遊びの幅を広げたり発見をする。

2. 活動スケジュール

- ・鏡の前で自分の姿を映して見る。
- ・笑ったり、面白い顔をしていろいろな表情を楽しむ。
- ・ポーズをとったり、踊ったりしながら体の動きを知る。
- ・ミラーボックスを覗き、前、横（左右）下にある鏡を見て普通の鏡とは違うことに気づく。
- ・映り方の角度を変えたり、横を見ると自分がたくさん繋がって見えることを不思議に思うなど、探求心を育む。

3. 探求活動の実践

準備品：ミラーボックス

・廊下に全身が映る鏡があり、自分の顔を見て「目が赤くなってる」など観察するなど、ちょっとした変化に自分で気づくなどしている。お気に入りの洋服を着ている時には、嬉しそうに鏡を見たり、踊ってみたり、カッコいいポーズをとってみたりと普段は人前でそのようなことをしない子どもも鏡の前ではいろいろな表情を見せている。保育士が見ると恥ずかしいのかやめてしまう子もいるが、自分の世界で楽しんでいるのがよく分かる。午睡明け髪の長い子は、鏡を見ながら結び、上手に結べていなくても、自分でできたという満足感を味わっている。

4面のミラーボックスを覗き前を見ると普通に映る。横を見ると奥がたくさん繋がっている様子を見て「すごい」「なんでたくさんみえるの」「とおくにかがみがあるのかな」と子どもたちの中から多くの不思議な疑問の声が聞かれた。絵を映しいろいろな角度から見たり、作った物が上手にできないと鏡に映して確認しながら作りあげる姿が見られた。

活動の様子



4. 振り返り

・鏡遊びは表情が豊かになる、自分を認識する、顔や体の動かし方を知る、想像力が育つなど、0歳児から遊べる物です。身近にある鏡を通して自分を認識し同じように動くことに興味を持ち、もう一人の自分を観察し喜んでいます。鏡の前だったら様々な動きができる子もあり、鏡は魅力的なものだと思います。そして鏡の形が変わると映り方が違い「どうしてだろう」という疑問が出てきました。遊びの工夫をし子どもたちなりの発見もありました。鏡遊びの中で五感を刺激し不思議に思うことが想像力を育み認知の発達にも促せればと思います。